



# 元気っ子

No 326 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

「Chat GPT」をすでにご利用されたことがある保護者さんはどのくらいおられるでしょうか。生成型の人工知能ですが、私は時々調べものに使ったり、AIだったらどう答えるのだろうかといった具合に使うことがあります。

先日、ながさわ保育園でも実践している「見守る保育・藤森メソッド」について聞いてみたところ、次のような回答でした。

『・・・見守る保育とは、保育者が子どもたちを徹底的に観察し、子どもたちの個性や特性を理解した上で、必要に応じて手を差し伸べることで、子どもたちの自主性や自己表現力、思考力などを育む保育の方法です。

従来の保育は、どちらかという保育者が主体的に子どもたちに指導を行うことが多とわれ、子どもたちはそれに従うことが求められていました。しかし、見守る保育では、子どもたちの興味や関心に合わせて保育内容を調整し、子どもたちが自ら学ぶ力を育むことを目的としています。・・・』

「見守る保育」という言葉だけで理解をしようとすると、どうしても「見てるだけ」や「放任」といったイメージが先行してしまいがちですが、私たちが実践している保育は、この先行イメージとは真逆のものです。

「見守る保育」の「見る」とは「子どもたちの徹底的な観察と理解をすること」です。なので、子どもたちの中に入りすぎてもいけませんし、かといって見ていなくてもいけません。適度な距離感をもってしっかりじっくり観察し、その理解を複数の職員と共有することで初めて理解が深まります。

そして「守る」とは「子どもたちの個性や、その発達過程において必要とされる援助を環境として用意すること」です。なので、言い換えれば「子どもたちの発達を守る」とも言えます。子どもたちが今、どのような発達過程にあり、その発達を最大限まで伸ばすためにはどういった環境を用意すべきなのかを考えて環境構成をしていきます。例えば子どもが椅子からジャンプをしていたら、当然それは「してはいけないこと」と伝えますが、「この子は今、ジャンプという発達過程にいるのだ」と理解し、ジャンプして遊べる環境を用意するということです。

これまでは従来型の保育・教育によって「みんなと同じことができる」「言われたことを言われた通りにできる」ことが評価されてきました。しかしコロナ禍に学校が臨時休校をした際、子どもたちは学校や教師からの指示がないと「何をして良いかわからず」学びを止めてしまうという実態があり、これまでの学校教育では「自立した学習者」を十分育てられていなかったという指摘があります。(OECD 生徒の学習到達度調査において、「学校が再び休校になった場合に自力で学んでいけるか」という項目で日本は 37 か国中 34 位)

年内にも新学習指導要領の議論が中央教育審議会が始まります。これからの時代に求められる教育にスムーズに移行していける乳幼児保育をこれからも実践して参ります。